

## 「大切な生き方」 ピリピ 4：11—13

I 前回の礼拝2部の時は、次の大切な事を学んだ。過去は決して変える事は出来ない。過去の失敗をいつまでも、後悔する事は、神が今与えられている時間とエネルギーの浪費である事。どうしようもない過去の事を嘆き、後悔している間、私達は自分を傷つけ、他人を傷つけ、神から与えられた今すべき働き、使命から身を遠ざけている。解決の道は、過去と将来を神に委ね、神が与えられた今日、今を大切にし、今すべき事にしっかり心を置き、心に向け、主と共に生きる事である。現在というかけがえのない時間を主によって大切に生きよう。「うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標（主を深く知り主の姿に変えられる）を目ざして一心に走っているのです」ピリピ3：13，14。

II 本日は次の大切な生き方を深く心に刻みたい。境遇を選ぶ事は出来ないが、その境遇を、どのように「受け止めるか」を主によって選ぶことが出来る。「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りる事を学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くして下さる方（イエス様）によって、どんなことでも（あらゆる事への対処）できるのです」ピリピ4：11—13。

1. 私達は、自分の力で、境遇、起こる出来事を思い通りにコントロールする事は決してできない。しかし、境遇、自分に起こる出来事に対する対処、受け止め方、考え方は、自分で選ぶことが出来る。人生で最も大切な事の一つは、試練、境遇、問題への「対処、考え方、捉え方、受け止め方、応答」を主に頼って行っていく事である。同じ事が起こっても、対処、受け止め方、捉え方、考え方は、人それぞれである。ある人は、他人を恨み、ねたみ、憎しみ、後悔、自分を責め続け、破滅の人生へ。ある人は、主に出会い、主に赦され、人と自分を赦す人生へ、あらゆる辛い境遇から大切な事を学び、主の姿に成長して行く人生に主は導いて下さる。ピリピ4：11—13の御言葉は、その事を教えている素晴らしい御言葉である。主は、私達が、どんな境遇に置かれても、それらに対して正しい対処ができるように助けて下さる。

2. 私達は皆、人生の中で、つらい苦しみに出会う。ある人は、その苦しみがもとで、恨みをいだくようになり、ある人は、他の人より多くの苦しみがあるのに、それらの苦しみを通して、神に出会い、神から深い事を教えられて、感謝の心を持つようになる事がある。「苦しみ会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」詩篇119：71。境遇は選べなくても、それに対してどんな選択、応答をもって応えるかで、全く違う人生となる。ある人は、年と共に徐々に恨みがましく、気難しくなり、ある人は、年を重ねるにつれ、喜び、感謝の心が満ちてくる。それは、恨みっぽくなる人の人生が、喜び、感謝の増す人の人生よりも、恵まれていなかったという事ではない。その人の内面でなされた選択、応答、捉え方が違ったという事である。キリスト者の特権は、人生に起こる問題、苦しみ、課題への大切な対処、応答、捉え方を、自分の力、考え方、視点ではなく、「私を強くして下さる」主と共に対処できるという恵みである。

3. 「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良  
いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心（原語：思考、理解力、分  
別、考え方、思い）の一新によって自分を変えなさい（原語：変えられ続けなさい）」ローマ12：2。  
キリスト者とは、心と思い、考え方が御聖霊と御言葉により、変えられ続け、問題、課題、悩み事を  
世的にはなく、聖書的に考え、捉え、受け取り、聖書的な物の見方（すべての事を神が支配し、計  
画と意味と御目的を持っておられるという正しい考え、理解）をする恵みを与えられる人々である。
4. 思い煩うとは、環境、境遇に支配されている事。どんなにつらく、追い込まれた中でも、私達が、  
私達を強めて下さる主に頼るなら、主は、正しい視点、考え方、理解、捉え方を与え、その試練の中  
でも、主の恵みを数えて感謝する思いを与え、その試練にも神の御手の中で意味があると理解する事  
（人間には、すべては理解できなくても、最善をなさる神に委ねる事）を助けて下さる。聖書的に考  
える、神の視点で見、考え捉える事は、信仰の本質である。信仰の人とは、自分が倒され、打ちのめ  
されないではおかぬように見える時でさえ、それでも、共におられる主、自分を強くして下さる主  
の視点で見直し、考える人のことである。
5. 私達のすべての問題は、私達が、正しく考えたり、  
神の前に物事に直面する事をしないで、感情的になり、過敏症、過敏な反応によって支配されてしま  
う事に原因がある。主ではなく、自分の思いに捕えられると、私達は、分別を失い、明確に考える事  
が出来なくなる。主から離れると、私達は、自分の心と思いを自分で刺激し、問題を悪化させ、感情  
をひねくれさせてしまう。自分で自分の問題を実際よりも、もっと大きく感じさせてしまう。「人生  
で大切な事は、起こっている問題以上に、私達が、その問題を、どう考え、捕え、それにどう対処す  
るかである」。
6. 私達の幸いの度合いを決めるのは、境遇よりも、私達が、それらをどう考え、  
捉え、受け止め、応答し、対処したかである。大切な事の故に、繰り返し述べたい。二人の人が、同  
じ問題、状態に直面しているのを見る事があるかもしれない。しかし、彼らには大きな違いがある。  
一人は、恨みがましく、気難し屋で、不平不満を並べている。もう一人は、穏やかで、物静かで、満  
ち足りた心、感謝の心を持っている。いったいどこに違いがあるのか。それは、彼らに起こった問題、  
境遇の差、違いではない。その違いは、彼等が、起こった問題、出来事を、「どう受け止め、どう反  
応、応答をしたか」である。ある詩がある。「獄窓からふたりが外を見た。ひとりはずかるみを。も  
うひよりは星を」。ひよりは下を見おろし、ひよりは上を見上げた。人生で根本的に大切なのは、事  
柄以上に、それらに対する私達の「対処、応答、考え方、捉え方、受け止め方、分別、理解」である。  
私達が、どうなるかを決定するのは、その事柄自体ではなく、それに対する私達の反応の仕方である  
事を悟ることが出来ますように。問題を自分だけで対処しようとし、重荷を負い過ぎる事がありませ  
んように。あらゆる事に、自分一人ではなく、主に頼り主と共に対処出来ますように。信頼できる人  
に「主に頼って対処できるように」祈ってもらうことが出来ますように。
- 「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くして下さる方（主）によって、ど  
んなことでもできる（あらゆる境遇への対処）のです」ピリピ4：12，13